

大津町の目指すべき姿について

目次

第6次振興総合計画における「現代の宿場町」の位置づけ	・・・・・・・・・・・・・・	3P
「現代の宿場町」としての大津町の目指すべき姿（案）	・・・・・・・・・・・・・・	4P
「現代の宿場町」の実現に向けた取組（案）	・・・・・・・・・・・・・・	8P
法定外目的税の使途について	・・・・・・・・・・・・・・	11P
「現代の宿場町」の実現に向け宿泊税を充当していく事業（案）	・・・・・・・・・・・・・・	12P

第6次振興総合計画における「現代の宿場町」の位置づけ

- 現行の大津町の振興総合計画（基本計画）において、「観光の振興」に関し、大津町が取り組むべき施策の方針として、宿場町であることを活かした観光・交流の促進を定めています。

- 第6次大津町振興総合計画後期基本計画

1－4 観光の振興～地域特性（自然・宿場町）を活かした観光・交流の促進～

■ 現状と課題（抜粋）

- ・ 多くの人が行き交うものの……、通過する多くの人の町への立ち寄りや消費活動につなげることがあまりできていません。
- ・ ……阿蘇地域をはじめとした周辺環境を活かした広域の取り組みや近隣市町村との連携も模索中ですが、その余地はまだ多く残っています。
- ・ 国指定重要文化財の江藤家住宅や第11代横綱不知火光右衛門の墓所、世界かんがい施設遺産の上井手用水など、誇れる歴史資源があるものの十分に活かせていません。
- ・ ……現在、サッカーやバトミントンなどを中心に様々な地区大会、全国大会が開催されていますが、コンベンションや誘致活動の推進で、収益・経済効果創出面でも伸びしろが多分にあると考えられます。

■ 施策の方針（抜粋）

- ・ 町の南部や北部への新たな人流創出に向けた、肥後大津駅周辺から町全体へ向けた賑わいづくり
- ・ 新たな展開に向けた各種団体や近隣市町村との連携およびより合理的な協力体制の構築推進
- ・ ……大型大会の誘致やスポーツキャンプ等の施設を活かしたスポーツコンベンションの推進
- ・ 多種多様な関係者のネットワークを活かしたスポーツ合宿やキャンプの誘致

「現代の宿場町」としての大津町の目指すべき姿（案）

- 第6次計画の制定以後、現在までの状況の変化も踏まえ、大津町役場として、下記のとおり現状を把握しています。

■ 大津町の現状

- ・ 大津町は、江戸期より豊後街道の宿場町として栄え、人と物の交流を支える交通の要衝でした。
- ・ 現代においても、熊本空港の至近に所在し、JR肥後大津駅を有する、九州の中央に位置する結節点としての強みを持っており、近い将来、宿泊施設が2,000室を超える見込みであるなど、九州有数の滞在拠点へと発展しています。
- ・ また、大津町の宿泊者の過半数がビジネスを目的としており、平日の宿泊者が多いという独自の特徴があります。この安定した需要は大津町の基盤を支えるものであり、観光施策を進める上でも「守り育てるべき資産」と考えています。
- ・ さらに、熊本空港の国際便の増加や、近隣地域を含めた外国企業の進出などにより、アジアを中心とした外国人の観光客やビジネス客が急増しており、今後も需要の拡大が見込まれます。
- ・ 一方で、外国人を含めた訪問客の増加により、「ビジネスを目的とした来訪者の受入環境の整備」などの行政需要の増加が見込まれており、オーバーツーリズムを避け、住民と来訪者双方にとって快適な環境を確保するためにも、行政需要に対応する施策を実施していくことが必要です。

※ 現在、第7次振興総合計画の検討を並行して進めています。本ページ以降の整理については、現時点の町の考え方を示すものです。

「現代の宿場町」としての大津町の目指すべき姿（案）

- 今後大津町が「ありたい姿」として、「現代の宿場町」を目指したいと考えております。

■ 基本理念

- ・ 確かな宿泊基盤を生かしながら、滞在のあらゆる時間に食や交流を楽しめる「現代の宿場町」※としての魅力を磨き、とりわけ夜の賑わいを感じられる「夜も楽しい町・大津」という新たな価値を育てていきます。
- ・ また、観光・スポーツ・ビジネスなど、町内はもとより周辺地域で生まれる宿泊需要を積極的に取り込み、宿泊拠点としての厚みを高め、広域滞在圏の中核として選ばれる町を目指します。
- ・ あわせて、年間1,000万人を超える阿蘇地域観光客など広域交通流を捉え、宿泊者の滞在中の消費や立ち寄り需要を町内経済に循環させ、観光を起点とした持続的な地域発展を図ります。
- ・ さらに、町内の歴史・文化・自然・食・体験を組み合わせた周遊型観光資源の活用や、スポーツ・モビリティを通じた交流、熊本空港の国際便増加を背景としたインバウンド需要にも対応し、多様な宿泊・交流の可能性を広げていきます。



- ・ 以上の取組から、「熊本に泊まるなら大津町」と第一に想起される「現代の宿場町」を確立し、宿泊を中心据えながら、立ち寄りによる経済循環を重ねる「宿泊・交流の拠点都市」としての地位を築いていきます。
- ・ 観光を通じて、地域経済の活性化と、住民の暮らしやすさ・誇りが両立する、持続可能な観光まちづくりを推進していきます。

※ 現代の宿場町

江戸期に人と物の往来を支えた宿場町の精神を受け継ぎながら、宿泊・食・交流を通じて人と地域をつなぐ「滞在と交流の拠点」を指し、ビジネス・観光・スポーツなど多様な目的で訪れる人々が、町の魅力に触れ、交わることで、新たな価値とにぎわいを生み出す現代型の交流空間を目指します。

「現代の宿場町」としての大津町の目指すべき姿（案）

■ ありたい姿の関係性

<通過点から目的地へ、そして立ち寄られる町>

宿泊を通じて町の魅力を体感できる「現代の宿場町」として、食・文化・自然・交流を楽しめる「滞在の時間そのものに価値を感じる町」へと進化します。また、周辺観光地の拠点であるとともに、阿蘇地域の観光客や熊本空港を経由する周遊動線の中で、立ち寄りや滞在を通じて楽しめる町を目指します。



上記を進めることによって下記も実現



<観光を地域の力にする町>

観光で得られるにぎわいと恵みを、暮らしの豊かさへとつなげます。訪れる人が増えることで、道路や公共施設の整備、文化や交流の機会が広がり、町が少しずつ暮らしやすく、美しくなっていきます。観光を、町の経済を支え、人と人をつなぐ「地域の力」として位置づけます。

<歴史と誇りを未来へつなぐ町>

宿場町の歴史・文化・自然を大切にし、町民の誇りを支える観光まちづくりを進めます。独自の資源を現代的に磨き上げ、来訪者に伝えています。

「現代の宿場町」としての大津町の目指すべき姿（案）

- 「現代の宿場町」を実現するための目標として、下記の通りの要素を実現していきたいと考えております。

■ 目標

1. 交通結節点を生かした「宿泊・交流拠点」の確立

- ・ 結節点としての立地・宿泊施設の集積を活かし、「熊本で泊まるなら大津町」という選択肢を定着させる。
- ・ 「夜も楽しい町・大津」としての魅力を高め、宿泊・食・交流が融合する拠点として発展させる。
- ・ 現在過半数を占めるビジネス宿泊需要を基盤にしつつ、広域周遊、スポーツ拠点・モビリティイベント、インバウンド等による滞在需要を計画的に取り込む。

2. 広域連携による厚みのある滞在環境の整備

- ・ 大津町を阿蘇や熊本市、菊池地域などの観光資源と大津町を結びつけ、滞在の起点と位置づける。
- ・ 大津町内外の多彩な観光資源やイベント、MICE施設を組み合わせることで、滞在の厚みや魅力を一層引き出すとともに、イベントや大会、企業交流の宿泊需要を取り込む。
- ・ 宿泊者の滞在中の消費を促進しつつ、阿蘇観光ルートなど広域交通流の立ち寄り・滞在需要を町内消費へと誘導する。

3. 多様なニーズに応える柔軟性

- ・ ビジネス目的の滞在のみならず、教育旅行やスポーツ合宿、ライダーの交流イベントなど、幅広い需要を受け止める。
- ・ 「短時間でも楽しめる多彩な体験」により、短期から長期までの滞在に柔軟に対応し、リピーターを育てる。

4. 住民利益との両立

- ・ 観光による経済効果を、飲食・商業・交通の利便性向上に結びつけ、町民生活の質を高める。
- ・ オーバーツーリズムを避け、住民と来訪者双方にとって快適な環境を確保する。

「現代の宿場町」の実現に向けた取組（案）

- 「現代の宿場町」を実現するため、下記の取組を実施していきたいと考えております。

■ 取組（案）

1. 宿場町の顔 ＝ 肥後大津駅周辺の魅力化

駅周辺まちづくり基本計画に基づき、バス転回広場（使用開始済み）、橋上駅化、駅ビル、立体駐車場などの整備を着実に推進する。交通利便性と回遊性を高める公共基盤を整備し、民間投資を呼び込むことで、「宿場町の玄関口」として町のブランドを象徴する拠点を形成する。

あわせて、駅前を情報発情・観光案内・二次交通の結節点として位置づけ、観光客やビジネス客が立ち寄り・滞在しやすい環境を整え、現代の宿場町としての顔づくりを進める。

2. ビジネス滞在環境の充実

宿泊者の過半数を占めるビジネス需要を「守り育てる基盤」として位置づけ、Wi-Fi・ワーキングスペースなどの業務環境に加え、夜の飲食・交流空間や運動施設などのリフレッシュ機能を整備し、「仕事に便利で、アフター5も快適な町」としての滞在満足度を高める。出張・研修などの長期滞在や再訪を促し、平日の稼働率を安定的に維持する。

3. 広域連携と周遊型観光資源の活用

阿蘇・熊本市・菊池地域などの広域観光圏と結びつけ、大津町を滞在・周遊の起点として確立する。

江藤家住宅、世界かんがい施設遺産、不知光右衛門、ゾロ像、地元体験プログラムなど町内の周遊型観光資源を磨き上げ、広域観光ルートや地域ブランドと組み合わせて滞在価値を高め、また、Honda 熊本製作所、HSR 九州、オートポリスなどのモビリティ関連拠点と連携し、イベント・大会・企業交流による宿泊需要を取り込むとともに、観光バスやレンタカーが立ち寄りやすい駐車・案内環境を整備し、通過交通からの消費転換を図る。

「現代の宿場町」の実現に向けた取組（案）

4. スポーツ・モビリティ滞在の拠点化

総合運動公園の体育館空調整備などを通じて、町内の競技・合宿環境を段階的に改善する。

県営アリーナやパークドームなど周辺施設と連携した大会・合宿誘致を推進し、Honda 熊本製作所、HSR 九州、オートポリスで開催されるモータースポーツやイベントと連動した宿泊・観戦需要を取り込む。

施設の週末の稼働率向上を図るとともに、ファンイベントや関連展示などを通じて立ち寄り消費の拡大を促す。

5. 外国人観光客への受入環境整備

熊本空港の国際便増加を見据え、宿泊・飲食・観光施設の多言語対応、キャッシュレス決済、Wi-Fi環境を整備する。

また、事業者向けの語学・異文化対応研修を実施し、外国人が安心して滞在できる環境を整えるとともに、外国人観光客に向けた多言語 PR を通じて海外市場での認知度を高める。

6. 宿泊・飲食・体験の連携強化

宿泊・飲食・体験を一体的に楽しめる仕組みとして、ホテルと地元飲食店の共同企画や地域限定クーポンの発行、観光マップ・グルメガイドの整備などを進め、「泊まって・食べて・楽しむ」滞在循環を形成する。

特に、地元食材・郷土料理・飲食事業者の育成支援を通じ、「食で選ばれる宿場町」を目指す。

7. 二次交通の利便性向上

駅から離れたホテル群を中心に移動手段の確保が課題となっているため、宿泊・交通事業者と連携し、シャトル運行、民間タクシーの活用などの民間主導型交通手段を支援・実証することで、滞在者の利便性を向上させる。

また、観光客と住民双方に配慮した「観光と生活の交通共存モデル」を検討する。

「現代の宿場町」の実現に向けた取組（案）

8. 住民との共生・快適な観光環境づくり

観光振興の効果を、住民生活の利便性や環境改善へと還元するため、観光客増加に伴う清掃・ごみ処理・トイレ・案内板整備・交通基盤などを充実させ、住民と来訪者がともに快適に過ごせる環境を整備する。

また、観光が町民の誇りと安心を支える、持続可能な地域共生モデルを構築する。

9. ブランド発信とプロモーション強化（横断施策）

江戸期に人と物の往来を支えた宿場町の歴史を礎に、現代においては「泊まる」「立ち寄る」という多様な滞在形態を包括した「交流の拠点」としてのブランドを確立するため、「熊本に泊まるなら大津町」をキャッチコピーに据え、町全体の統一ブランドとして発信を強化し、SNS・動画・多言語広報・旅行博出展・モニターツアー等の多様な媒体を活用し、宿泊・飲食・スポーツ・文化などの地域資源を「宿場町の物語」として一体的に広報する。

特に、「泊まっても、立ち寄っても楽しい町」というコンセプトのもと、昼・夕・夜の時間軸でそれぞれの魅力を可視化し、滞在循環を生み出す戦略的プロモーションを展開する。

また、戦略的な広報・PRを継続的に実施し、認知度と誘客力を高めるとともに、事業者・住民・行政が一体となって「おもてなしブランド」を共有し、地域ぐるみの誘客体制を構築する。

法定外目的税の使途について

- 「……目的税は、収入の使途が特定されているもので、当該収入を充当する経費を特定し、通常、その支出と何らかの関係（受益等）を有する者にその負担を求めるものである。」（「地方税法総則逐条解説」）



- 外部検討委員会においては、宿泊税を目的税として検討しているため、その使途については、税負担を求める宿泊者と関係を有する経費（施策）に充てることとして整理する必要がある。

「現代の宿場町」の実現に向け宿泊税を充当していく事業（案）

- 先述の「宿場町おおづ」の実現に向けた施策について、法定外目的税に当たる宿泊税の税収は、特に下記の事業に充てることを検討していきます。

<優先的対応>（次回の宿泊税見直しまでに着手したい）

- 肥後大津駅周辺の魅力化
 - ・ 駅ビル（Wi-Fi・ワーキングスペースや交流空間の整備）、立体駐車場などの整備
 - ・ 駅前観光案内機能の整備 等
- 外国人観光客への受入環境整備
 - ・ 多言語パンフレット・案内板整備・キャッシュレス決済導入支援
 - ・ 事業者向け語学・異文化対応研修
 - ・ 外国人観光客に向けた多言語 PR 等
- 飲食体験の強化
 - ・ 飲食環境の整備（モバイルオーダー、キャッシュレス決済導入支援）
 - ・ 宿泊者向け飲食マップ・クーポンの発行
 - ・ ホテル・飲食店の共同企画補助金 等
- 二次交通の利便性向上
 - ・ 宿泊者向けシャトルバスの実証
 - ・ 民間タクシーの活用 等

「現代の宿場町」の実現に向け宿泊税を充当していく事業（案）

＜波及的対応＞

- 広域連携強化（観光・スポーツ施設との結びつき）
 - ・ 阿蘇・熊本・菊池エリアと連動した広域観光ルートの造成
 - ・ 県営アリーナ・パークドームなどとの合宿・大会パッケージの造成 等
- 観光資源等の魅力向上（滞在の厚みづけ）
 - ・ 江藤家住宅の案内改修、世界かんがい施設遺産の多言語解説板整備
 - ・ 不知火光右衛門の活用やゾロ像周辺、岩戸渓谷周辺の回遊サイン整備
 - ・ 日本文化・食・工芸など体験プラン造成支援
 - ・ 観光バスやレンタカーが立ち寄りやすい駐車・案内環境等の整備 等
- スポーツ・モビリティ滞在の拠点化
 - ・ スポーツ施設の機器・設備更新の一部財源
 - ・ 大会・合宿誘致のプロモーション費用
 - ・ ライダーの受入環境の整備 等
- 住民との共生・快適な観光環境づくり
 - ・ 観光客増に伴う道路清掃・ごみ箱設置
 - ・ 商業地のトイレ改修や案内板改善
 - ・ 観光客増加に対応するための交通基盤の充実 等
- ブランド発信とプロモーション強化
 - ・ 「熊本に泊まるなら大津町」キャンペーン（SNS・動画制作）
 - ・ モニターツアー実施 等